

既存の60GHz帯特定小電力無線局の技術基準(空中線電力10mW、空中線利得47dBi)とは別に、10mWを超える空中線電力を使用する場合の無線設備の技術的条件を下記のとおり定める。

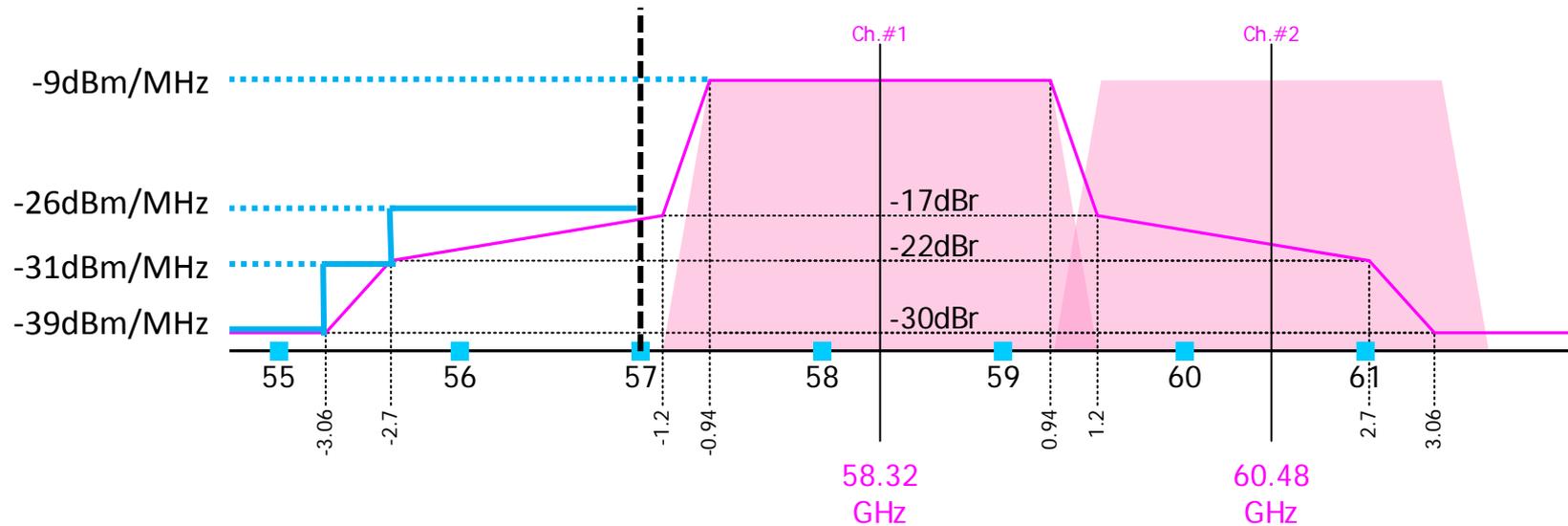
	60GHz帯特定小電力無線局	新たな60GHz帯無線システム
周波数帯	57-66GHz	57-66GHz
単位チャンネル	規定なし	規定なし
無線チャンネル	規定なし	規定なし
空中線電力	10dBm以下	24dBm以下
等価等方輻射電力	規定しない	40dBm以下
空中線利得	47dBi以下	空中線電力10dBmを超える場合は最大方向10dBi以上
変調方式	規定しない	規定しない
キャリアセンス	規定しない	キャリアセンスによる干渉低減機能を有すること。
占有周波数帯幅	9GHzを上限とし、規定しない。	9GHzを上限とし、規定しない。
不要発射の強度の許容値	55.26GHz未満:-39dBm/MHz以下 55.26~55.62GHz:-31dBm/MHz以下 55.62~57GHz:-26dBm/MHz以下 66~67.5GHz:-26dBm/MHz以下 67.5~67.86GHz:-31dBm/MHz以下 67.86GHz以上:-39dBm/MHz以下	55.26GHz未満:-39dBm/MHz以下 55.26~55.62GHz:-31dBm/MHz以下 55.62~57GHz:-26dBm/MHz以下 66~67.5GHz:-26dBm/MHz以下 67.5~67.86GHz:-31dBm/MHz以下 67.86GHz以上:-39dBm/MHz以下
空中線電力の許容偏差	上限50%、下限70%	上限50%、下限70%
周波数の許容偏差	±20ppm	±20ppm

【参考】不要発射強度の許容値の考え方

IEEE802.11adの送信マスク値を参照

- チャンネル#1の下側、チャンネル#4の上側を帯域外のマスクとして定義
- IEEE802.11adでは下図(チャンネル#1の例)のように電力密度に対する比で定義

空中線電力10mWの場合 : $-23\text{dBm}/\text{MHz}$ (帯域幅2GHzと仮定の場合)
空中線電力250mWの場合 : $-9\text{dBm}/\text{MHz}$ (同上)



現行の規定

	許容値
帯域外領域におけるスプリアス発射の強度	$100\mu\text{W}/\text{MHz}$ ($-10\text{dBm}/\text{MHz}$)
スプリアス領域における不要発射の強度	$50\mu\text{W}/\text{MHz}$ ($-13\text{dBm}/\text{MHz}$)